

小平西のきずな

「小平西地区地域ネットワーク」ニュース No. 36

2020年12月18日（火）発行

発行責任者:草野篤子(白梅学園大学)

TEL: 042-346-5639

住所:〒187-8570

東京都小平市小川町1-830

地域連携事業を担当者して思うこと

子ども学科 杉山貴洋

小平市の地域連携事業の担当者となって14年が経過した。障がいのある子どもたちの発達支援の場を大学と地域の連携によって作りあげるものである。開始当初は、文部科学省からの助成を受けてスタートしたものであるが、現在は、小平市から白梅学園大学が療育の委託事業を受けるかたちで継続している。もともとは、私がファシリテーターを務めていた芸術療法の方法論を、私のゼミ生たちがワークショップとして発展させてきたものであるが、ここでは、ワークショップの番外編に触れながら地域のことについて考えたいと思う。

ワークショップを内側から作り上げていくと、やはり子どもの思いを受けとめたいという気持ちが強くなっていく。子どもの思い、保護者の思い、様々な子どもを受容していくことが、地域の活動につながっていくことは、頭では分かっているが、そのニーズはひたすら増えていく。当初、未就学の子どもを対象にしていた造形ワークショップは、小学生のワークショップを作り、春休みと夏休み

には演劇のワークショップを作り、その数はフル稼働を超えてオーバーワークとなっていく。

ある時、苦渋の決断として小学校6年生の年齢制限を、小学校3年生まで下げたことがあった。それでも参加希望が飽和していて、その時、半ば思いつきで始まったのが「親子でちよこっとテニス」だった。造形ワークショップの番外編である。造形ワークショップは、芸術療法があるように療育としての実践に適切であるが、テニスは一体どうなのだろう。この時、正直に振り返れば、私が経験者というだけで療育的な根拠は全くなかった。それでも、すぐに参加者が殺到してしまったため、1年目は市報で募集することなく始まったことを記憶している。

知的の障がい、ダウン症、自閉症、ADHDや緘黙、症状や症例などは、子どもの個性からすれば大きなものではないと分かっているが、障がいのある子どもとどうやってテニスをするのだろうか。字に書いた通りの暗中模索である。フォームを伝えても分からない、1回きても2回目はできない、ステップを教えてもジャンプをする、順番に並べない、誰かが一緒にいかないとネットに並ばない、たまに脱走する、すぐに疲れる、などなどグチャグチャのテニスのような不思議な活動が始まった。球出しも、球を出すというよりは、子どもたちがラケットを振っているところに当たるように球を出すという具合である。それで

小平西地区ネットワークって何？

2012年3月17日に白梅学園大学関係者が様々なNPO、ボランティア団体、民生・児童委員、町内会、大学・学校などに関係する方々に呼びかけて「お互いの顔が見える人間関係が豊かな地域づくり」を目指して立ち上げました。個人ベース(団体の担当者でも可)の加入を基本とする開かれたネットワークです。市民の皆さん一緒に活動に参加なさいませんか？

も、この活動が続くことになったのは、白梅に通う子どもたちが楽しそうだったからである。

そして、カオスで始まったテニスのボランティアも今や4年目を迎えた。1ヶ月2ヶ月では成長の分からない子どもたちも、1年単位で見れば確実にラケットにボールが当たるようになってきた。それどころか、順番を並び、時にじゃれ合い、球拾いも喜んでするようになったのである。

さらに、ふと気がつく「親子でちょこっとテニス」に通う子どもたちは、私の娘よりもボレーが上手になっていた。考えてみれば当たり前のことではあるが、気が向いた時

に遊びでテニスをする自分の娘より、定期的に通い続ける子どもたちが遙かにフォームが身につくのは継続するからである。そして、地域の活動って一体どういうことなのか自問自答する。

現在、新型コロナウイルスの影響で数多くの地域活動が縮小を余儀なくされている。小平市の連携事業も例外ではない。それでも小さくなくても短くなくても続けることの大切さをメッセージとして届けたい。続けているからこそ見えてくる風景は、その風景よりもさらにきついい未来があるということを信じて。

身近な自然とともに 白梅幼稚園園長 山形美津子

白梅幼稚園の周りには多くの自然があります。その一つが幼稚園の目の前にある玉川上水と緑道です。園児たちにとっては身近で大好きな場所です。幼稚園からも季節折々に散歩で出かけては小さな虫を見つけたり、木の実を拾って帰ってきたりしています。幼稚園とご縁のある地域にお住まいの方で、この地域の自然を守る活動を続けておられるリー智子さんがいらっしゃいます。



リーさんは、「小さな虫や草や生き物たちを支える会代表」の仕事をしておられます。そのリーさんと園児たちが一緒に取り組んだ玉川上水の絵画制作活動も2回目となりました。

前回と同じくリーさんには玉川上水の歴史について江戸時代にさかのぼり、年中組の子どもたちに分かりやすくお話を聞かせていただきました。

そして、玉川上水に住んでいる小さな虫や草花の話を伺ったり、木の実(主にドングリ)を見せてもらったりして、それらを絵にする活動に取り組みました。子どもたちはリーさんのお話を思い出しながら「こんな虫もいるね」「こんな木もあるね」と思い思いに絵を描くことができました。嬉しいことにこの度は、この活動の様子を11月5日付けの朝日新聞『「ぶらりふらり」小平』という多摩版のページに掲載していただきました。

その記事の一部を紹介させていただきます。

【白梅幼稚園の園児たちはリーさんの話を聞き、水と緑、生き物の絵を描いた。長さ10メートル近くの大作は、そばの西武・鷹の台駅地下道に飾られている】

と、絵画と共に掲載していただきました。

子どもたちが自分の住む地域、これから育っていく地域を大切に思い、自然を守っていかうとする気持ちを育むことはとても大切なことです。

人が生きていく上での原風景は、幼少期の体験からと言われています。これからも自然を大切に、小さな生き物にも目を向け、心を寄せる子どもたちであってほしいと願っています。

白梅子育て広場オンラインあそぼうかい

発達臨床学科4年 松本望



この度オンラインあそぼうかいの代表を務めさせていただきました、白梅子育て広場 4 年の松本望です。白梅子育て広場は今まで「人と人が繋がる場」を目指し、安全な環境の中で安心してあそび場を作ってまいりました。しかし今年度は新型コロナウイルスの影響で例年通りの活動が行えず、4 月～10 月の全ての企画を中止いたしました。

4 月から現在に至るまで大学は入構制限がされていて、私たち学生はオンラインでの授業をベースに学生生活を送っております。

コロナ禍で私たちにできることは何か、学生と教員で何度も話し合いを繰り返し、例年大学で行っているあそぼうかいを Zoom 上で開催する「オンラインあそぼうかい」という新しい形の企画が完成しました。

今回のあそぼうかいは、120 名以上の学生が準備に参加し、画面越しにどのようなあそびを行ったら参加者の方に楽しんでもらえるのか、見せ方や伝え方はどう工夫したら良いのか、など何度も壁にぶつかりながら何ヶ月も試行錯誤して作ってきたものです。

オンラインあそぼうかいを考え始めた頃は、国が go to トラベルを開始したり、様々なイベントが徐々に感染症対策をしたうえで対面開催を行い始めた頃でした。保育所や幼稚園、小学校も通常通り毎日子どもが通っている中で、オンラインでの企画は果たして地域で需要があるのか、参加者は集まるのか私たちは不安に感じてい

ました。

しかし、白梅子育て広場が 10 年以上かけて築いてきた信頼と知名度そして人や団体との繋がりのおかげか、又は実際に地域でオンラインでの企画にニーズがあることの現れなのか、親子 19 組と施設参加 2 件の約 60 名の参加が申し込みが来ました。

参加を申し込んでくださった障害児デイサービスの職員からは、「この状況の中、施設として外出も難しく、オンラインでの企画はとても嬉しい。」というお話もあり、オンラインでのニーズがあることを実感することができました。

今までのあそぼうかいと違って遠方からの参加も可能になったことが今回のあそぼうかいの変化でもあります。普段のあそぼうかいでは参加がない市や埼玉県などか



らも参加がありました。

地域に根付いていくことを目標としている白梅子育て広場の活動方針とは少しずれてしまうかもしれませんが、遠くからでも参加できるというのはオンライン企画の最大のメリットでもあります。小さな小平市から飛び出して白梅子育て広場を知ってもらうのは良いことだと私は思っています。そこから、参加してくださった方がまた他のオンライン企画に参加してみたり、コロナが収まってきた時に自分が住んでいる地域で同じような活動をしているところに行ってみよう、と出向いたり、孤立しやすい子育て世代が地域で新しい繋がりをつくるきっかけになるかもしれません。

あそぼうかい当日は、非常に賑やかなイベントとなりました。



画面越しのやり取りに緊張したり上手く喋ることができないのは実は私たち大学生の方で、参加してくれた子

どもたちは皆新しいことへの順応が早く、それぞれのびのびとあそぼうかいを楽しんでいました。そのパワフルさに私たちが元気をもらうくらいです。

初めてのオンライン開催のため、トラブルや改善しなければいけない点はもちろんたくさんありました。しかし、参加してくださった方が笑顔で楽しむ様子や、キラキラとした目で画面を見つめる顔を見て、オンライン企画の良さや可能性も感じています。今回のオンラインあそぼうかいには、コロナ禍での私たちの活動の大きな一歩になったのではないのでしょうか。

コロナ禍で私たちに来ること、コロナ禍だからこそ地域で必要なことを考えながら、白梅子育て広場はこれからも成長し続けていきたいと思えます。そして少しでも早く、またいつものように大学であそぼうかいを開催できる日が来ることを願っています。

デイサービスオーリーブたかの台での対面での世代間交流 -2020年12月1日- 白梅学園大学 子ども学部 家族地域支援学科 教員 森山千賀子

白梅学園大学(以下、本学)の2年次の授業科目である世代間交流論・演習授業では、毎年大学内で地域のデイサービスの高齢者の方々にお越し頂き、コミュニティカフェ(世代間交流)を行ってきました。今年は、新型コロナウイルス感染症が蔓延する中で、デイサービスオーリーブたかの台(以下、オーリーブたかの台)の利用者・職員の方々とは、オンラインという形で2回ほど交流の場を持たせて頂きました。



今回は、受講学生の通学日(対面授業日)でもあることから、三密回避が前提ではありますが、「直接デイサ

ービスに学生が出向いて体操等の企画を持ち込むというのは可能でしょうか。」と、オーリーブたかの台の相談員の方にご相談させて頂きました。

この間の夏の介護実習でも、感染症対策をしながら見学をさせて頂きましたが、今回は「オンライン先でどのような事が起きているのか学生さん達が直接体験できる良い機会だとも考えます。」というお返事を頂き、学生5名と教員2名で、マスク、フェースシールド、携帯用アルコールジェル・シート等も持参し、体操や紙風船ゲームを行わせて頂きました。

オーリーブたかの台では、アクリル板で利用者の座席を仕切るなどの対策を行っており、オンライン上でもその状況を見ることはできていました。しかし、学生たちが当初想定していた以上にアクリル板には高さがあり、うちわで次の利用者の方に紙風船を送る際にアクリル板にあたることで、スムーズに進まない事態が起きました。それでも臨機応変に工夫をしながら何とか切り抜けることができほっと一安心でしたが、オンライン上ではわからない、また体験できないことがあることを再認識した一時でした。

利用者の方からは、「白梅(学園)大学、行ったことある

わ。」「山梨から通っているの。」「楽しかった」等の声を聞くことができました。授業や教育は、本学のなかだけで完結するものではなく、地域のさまざまな方々との交流・対話なかで深まり培っていきけるものであることを再認識しました。さまざまな困難があっても「日々の暮らし

から未来を創り出していくこと」の大切さを学んだように思います。

新型コロナウイルス感染症の収束にはもう少し時間がかかるかもしれませんが、皆さま、良いお年をお迎えください。どうぞ来年も、宜しく願い申し上げます。

介護レクリエーション演習を行いました。

白梅学園大学 午頭 潤子

白梅学園大学 子ども学部 家族・地域支援学科で介護福祉士を目指す今年度入学生は 25 名在籍します。例年の2倍ほど多い学生さんが2月に実施予定である介護実習Ⅱ期へ向けて、学内外で勉学に励んでおります。



世間では、新型コロナウイルス感染症に関するニュースを見ない日はなく、感染症対策のため夏に実施予定であった介護実習Ⅰ期は高齢者施設等での実習を行うことはできませんでした。

しかし、卒業後は、介護福祉・社会福祉の最前線で働くエッセンシャルワーカーを希望する学生も多く、福祉等に関する知識・技術は勿論のこと、感染症対策などもより身近に感じながら授業にも参加しています。

今回の介護過程の授業では、実際の福祉現場を想定して介護レクリエーションの企画・運営の演習を行いました。

職員・実習生役の学生が、利用者役の学生に対し、レクリエーションを実践した様子です。(写真)

学生からは、「初めは全体的に緊張していたがレクリエ



ーションをしていくうちに真剣に取り組めた」、「利用者役の学生に負担をかけてしまった。周りへの配慮が必要であった」、「楽しいと感じていただけるようレクリエーションを実施したが、そのレクリエーションに運動機能向上や認知症予防などの意味や意義をしっかりと考える必要性を感じた」、など気づきが多い演習となりました。

またレクリエーションの開始前や実施中、終了後に体調の確認をする、アルコール消毒を行う、レクリエーションで使用する物品の使いまわしはしない、密を避ける配置とするなど対策も企画書に記入し実践していました。



彼らが介護実習はじめ、介護福祉・社会福祉の現場、地域でお世話になります。どうぞよろしくお願いいたします。

彼らが介護実習はじめ、介護福祉・社会福祉の現場、地域でお世話になります。どうぞよろしくお願いいたします。

「分かった会」に携わらせていただいて

慶應義塾大学3年 仙田真唯

コロナによる自粛生活により、残り1年半の学生生活

の過ごし方を見直す機会がありました。そこで自分が生まれ育った地元小平への恩返しという意味も含め、地

域活動に参加したいという気持ちが募った結果、9月から講師として西ネットの「分かった会」に携わらせていただいています。かねてより小学生対象の学習塾においてアルバイトをしていた経験を、ボランティアという社会貢献として活かす事が出来たらという思いから参加させていただいた次第です。



現在は受験を控える中学三年生の子どもたちに分からない問題のフォローをしたり、一緒に解法を考えたりしています。自分自身が一から十まで教えてしまうのではなく、子供たちが「自分で勉強できる力」を身に付ける事が出来るよう、その支援を行っています。

学校生活、部活動を終えて疲れているにも関わらず、毎週、会に参加し勉強に励んでいる彼らを見ると、自分の大学での勉強の在り方を反省させられることも多々あります。また、日々子供たち、そして講師の皆さまに沢山の刺激を受けております。

他の講師の方々に比べ、まだまだ知識や経験共に足りず、子供たちにとってより良い指導法とは何かを日々模索しております。私自身が大学生で、指導する子どもたちと年齢や立場が近いという事で、より彼らに親身に寄り添う講師を目指していきたいと思います。これからもできる限り協力させていただきたいと思います。宜しくお願い致します。

第37回懇談会(オンライン)報告

9月29日(火)はじめてのオンライン懇談会が行われました。参加者は15人ということで日頃の対面の懇談会に比べて少なかったですが、今まで参加できなかった方の参加や積極的な意見交換があり、非常に有意義な懇談会になりました。

はじめに自己紹介があり、小平市役所の市民協働・男女参画推進課の松尾課長をはじめ、地域の世話人、薬局の方、介護に従事している方など、今回の新型コロナウイルスの中で苦勞されている方の様子が伺えました。

新型コロナウイルスの影響

子どもたちが運動することができなくなっている様子や介護の現場では、密にならないと言いながら体の接触をしなければならぬ危険と自分が感染するかも知れない恐怖との闘いになっていること、事業所もできるだけ介護を避けざるをえず、80過ぎの高齢者が孤立している様子が話されました。

またスティホームで夫が在宅仕事になり、妻は行き場がなくなっている状況や、公的な施設がオープンしていないので出かけて行くこともできない、会話をするチャンスがなくなっているという報告もありました。地域の居場所も開催することができずご機嫌伺いの葉書を出すことでコミュニケーションをはかるというところもあります。

自分の母親が100才をこえて施設に入っているが面

会ができずに、やっと5分だけ面会がかなったことや勉強なども遅れてしまっている子どもの様子が語られました。小平市役所でも半数勤務となり様々な企画が中止になったり、地域のことができない状況が続いている様子が報告されました。

オンラインの活用について

コロナ禍で進んだのがオンラインの交流ですが、これも若い世代には力になっているが高齢者はなかなかそれについていくことができず、そのことがかえって孤立を深める結果になっているという意見がありました。70才以上でスマホを遣っている人はまだ25%程度で、携帯電話さえ使っていない人もいます。こういう人たちをどうしたら繋いでいけるのかという問いかけもありました。オンラインの交流が楽しいということを伝えることも重要ではないかという意見もありました。白梅学園大学では学生がオーリーブと高齢者とオンラインでの交流を行い、それが11月末の子育て広場にも拡大しています。

なお手紙という昔からの手だても役に立つのではということで、これを機会に積極的に取り組もうという提起も出されました。手紙は後に残るもので、交流を広げる上で大きな力になるのではないかという意見も出ています。なお対面の交流をすすめるにあたって地域センターや公民館の活用も必要です。

コミュニティタクシーに乗ってみよう

鷹の台駅西側ルート第II期(実証実験運行)

10月26日～3月19日

10月26日より、小平市コミュニティタクシー鷹の台駅西側ルート第二期実証実験運行が行われています。既に1ヶ月が経過しましたが、目標の乗車数には届いていません。なんとか正式にスタートできるように多くの

方々の協力が欲しいです。バス停がどこにあるのかわからないという人がいるかも知れませんが、以下のコースを走っています。

①鷹の台駅北→②たかの台本通り→③白梅学園・創価学園→④小平第五中学校→⑤小川1丁目地域センター・児童館→⑥小平西高校東→⑦若葉町団地北→⑧上水新町地域センター→⑨南台病院→⑩いなげや小平小川橋店→⑪せきれい公園(十二小隣)→⑫小川1丁目地域センター・児童館→⑬小平第五中学校→⑭白梅学園・創価学園→⑮鷹の台駅北

	1便	2便	3便	4便	5便	6便	7便	8便	9便	10便	11便	12便	13便	14便	15便
①発		9:20	10:00	10:40	11:20	12:00	12:40	13:20	14:00	14:40	15:20	16:00	16:40	17:20	18:00
②		9:21	10:01	10:41	11:21	12:01	12:41	13:21	14:01	14:41	15:21	16:01	16:41	17:21	18:01
③		9:24	10:04	10:44	11:24	12:04	12:44	13:24	14:04	14:44	15:24	16:04	16:44	17:24	18:04
④		9:25	10:05	10:45	11:25	12:05	12:45	13:25	14:05	14:45	15:25	16:05	16:45	17:25	18:05
⑤		9:28	10:08	10:48	11:28	12:08	12:48	13:28	14:08	14:48	15:28	16:08	16:48	17:28	18:08
⑥		9:31	10:11	10:51	11:31	12:11	12:51	13:31	14:11	14:51	15:31	16:11	16:51	17:31	18:11
⑦		9:32	10:12	10:52	11:32	12:12	12:52	13:32	14:12	14:52	15:32	16:12	16:52	17:32	18:12
⑧		9:34	10:14	10:54	11:34	12:14	12:54	13:34	14:14	14:54	15:34	16:14	16:54	17:34	18:14
⑨着		9:35	10:15	10:55	11:35	12:15	12:55	13:35	14:15	14:55	15:35	16:15	16:55	17:35	18:15
⑨発	9:00	9:40	10:20	11:00	11:40	12:20	13:00	13:40	14:20	15:00	15:40	16:20	17:00	17:40	18:20
⑩	9:03	9:43	10:23	11:03	11:43	12:23	13:03	13:43	14:23	15:03	15:43	16:23	17:03	17:43	18:23
⑪	9:08	9:48	10:28	11:08	11:48	12:28	13:08	13:48	14:28	15:08	15:48	16:28	17:08	17:48	
⑫	9:09	9:49	10:29	11:09	11:49	12:29	13:09	13:49	14:29	15:09	15:49	16:29	17:09	17:49	
⑬	9:11	9:51	10:31	11:11	11:51	12:31	13:11	13:51	14:31	15:11	15:51	16:31	17:11	17:51	
⑭	9:13	9:53	10:33	11:13	11:53	12:33	13:13	13:53	14:33	15:13	15:53	16:33	17:13	17:53	
⑮着	9:18	9:58	10:38	11:18	11:58	12:38	13:18	13:58	14:38	15:18	15:58	16:38	17:18	17:58	
	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→

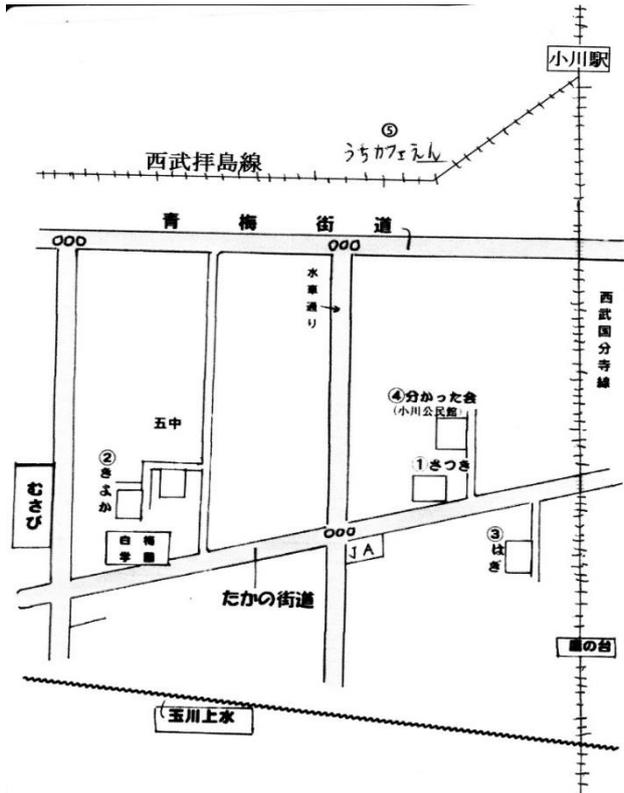
- ◆運行日:月曜日～金曜日(祝日は除く)
- ◆運賃:大人150円子ども(小学生)80円(未就学児は無料)小銭を用意して下さい。
- ◆1日乗車券大人400円、子ども200円
*1日乗車券は車内で販売しています。にじバス、ブルーベア号全路線で共通利用できます。
- ◆運行・忘れ物の問合せ 小平交通(042-341-3030)

とにかく走らせることが大切です。実証実験ではありませんが、走り出せば必ず利用が増えると思います。走らせるためにこれから3ヶ月、大いに乗ってみましょう。

皆さん、コミュニティ・サロン(下の①～⑤)と「中学生勉強会」(④)に足を運んでみませんか?

お待ちしております! (右の地図を参照)

- ① **ほっとスペースさつき**
毎週火曜と木曜 10:00~16:00 (移転先検討中)
問い合わせ: 渡辺 穂積
TEL: 042-344-7412
- ② **ほっとスペースきよか**
毎週月曜 11:30~15:30 (移転先検討中)
問い合わせ: 石川 貞子
TEL: 090-7732-2089
- ③ **アットホームはぎ**
毎月 7, 17, 27 日: 14:00~17:00
問い合わせ: 萩谷 洋子: 042-342-1738
- ④ **「分かった会」小中無料学習教室**
毎週木曜日 18:00~20:00 (小川公民館)
問い合わせ: 奈良 勝行 (講師募集中!)
TEL: 090-4435-4306
- ⑤ **子育てサロン「うちかフェェん」(小川町)**
毎週月・水 13:00~15:30分
問い合わせ: 伊藤絹代
TEL: 090-5441-6219



西ネットの今後の予定
 大学世話人会: 01月12日(火) 18時~
 地域世話人会: 02月02日(火) 18時~
 大学世話人会: 02月16日(火) 18時~
 懇談会: 03月08日(火) 18時~
 大学世話人会: 03月16日(火) 18時~

イベントの予定

(コロナウィルスの影響でほとんどの計画は未定です)

西ネットの世話人

ブロック	地域世話人	大学世話人
1	西 克彦・丸山安三	瀧口 優・杉本豊和 福丸由佳
2	足立隆子・芳井正彦・ 今野志保子	午頭潤子・土川洋子 吉村季織
3	石川貞子・大内智恵子・ 久保田進・穂積健児・ 杉浦博道・吉田徹	金田利子・草野篤子 西方規恵・牧野昴哲
4	桜田 誠・萩谷洋子 福井正徳・細江卓朗 渡辺穂積	井原哲人・森山千賀子
全体		奈良勝行・長谷川俊雄

お願い: この広報紙『小平西のきずな』の編集方針は、「顔の見えるネットワークづくり」を目指して参加団体(者)の活動などを紹介し、文字通り「市民のきずな」を築いていこうとするものです。ニュースの全部または一部を改編することはお断りします。もし使用したい場合は編集担当までお申し出下さい。

投稿募集: このニューズレターは皆さんと一緒に作るものです。活動の報告やイベントの企画などについての原稿をお寄せください(奈良勝行)。
 メール: ever.onward.nara@xd5.sonet.ne.jp

編集後記: 「小平西のきずな」も今回で 36 号を迎えます。3ヶ月に1号の発行なので、9年間この小平西地域の動きを伝えてきました。もちろんここに載せられなかったものも沢山あるので、それらを含めてもっと地域の顔が繋がっていくことを期待しています(瀧口)。